

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490900065		
法人名	社会福祉法人功寿会		
事業所名	グループホーム「市川桜の家」	ユニット名	あやめ
所在地	宮城県多賀城市市川字奏社31-8		
自己評価作成日	平成 26 年 9 月 15 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成26年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念である、「安全・自由・笑顔のある豊かな暮らし」をモットーに職員同士連携を図り、入居者様とその人らしい生活が送れるように支援を行っている。日中は施設せず、可能な限り自由に外へ出ることが出来る。また、外出の機会を多く設け家族や地域との交流を活発に行い、地域で認知症の方が安心して過ごせるように外部との関わり合いをもっている。入居者の残存機能を把握して、その能力を活かせるような役割活動を行っている。終末期における関わりについては医療機関との連携を図り、入居者様が最後まで住み慣れた場所で生活が送れるように支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して2年目を迎える「市川桜の家」は、自然に恵まれ、住宅が点在する閑静な環境にある。入居者は、ソファにかけて横になったり編み物をしたりテレビを見る等リビングで思い思いに寛ぎ過ごされている。専門資格を持つ職員が定着している反面、離職する職員等課題もあるが、入居者一人ひとりが自由に暮らせる「もう一つの我が家」をめざし、職員は日々のケアに取り組んでる。認知症の研修を行う等、積極的に地域に向けた働きかけをしている。事業所の開設から日も浅く、地域との基盤作りに向けた更なる働きかけを行い、地域の福祉の拠点となることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム「市川桜の家」)「ユニット名 あやめ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で理念を作り、朝のミーティングで唱和をして、実践できるように努めている。また、その時の入居者の状態に合わせて行動指針を変更している。	年度初めに行動指針6項目(その人に合った自由な暮らし・役割の提供他)を見直し理念を振り返った。職員は「自分だったら～してほしい」を入居者の立場に立った支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(夏祭り、敬老会、お花見等)に参加して交流を深めている。また納涼会等の施設行事にも地域の方々に参加をして頂いている。	町内会に加入している。地区の行事等に参加したり、家族の紹介でボランティア(大正琴他)も来訪している。地域向けに認知症の講習をする等地域交流に努めている。継続した日常的な取り組みに期待したい。	日常の地域交流の働きかけを行い、入居者の見守りや災害時等に協力が得られるよう運営推進会議を活用する等、地域交流の基盤づくりに取り組む事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部交流、認知症サポーター養成講座等を企画して、認知症に対して理解を深めていただけるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議事録を施設内に掲示すると共に、参加者から頂いた意見を受け止め、必要に応じて会議等で周知し、サービスの質の向上に努めている。	行政、地域包括職員、民生委員(住職)家族等の参加で奇数月に定期的に開催している。行政から保険制度や市の現状の情報を得たり、西部地区の学習会の様子を包括職員から聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	多賀城市役所の社会福祉課や地域包括支援センターに独居入居者の情報や生活保受給中の入居者の情報を毎月文書を直接届けて報告をしている。	同行の職員が、市民が入居するので市にも責任があると話していた。身寄りのない方等の入居者の様子うかがいに来訪している。市主催の防災訓練では、ホームを拠点とした防災体制の訓練を予定している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は防犯上の理由により、夜間帯のみ施錠をしている。日中は自由に出入り出来る環境により、入居者の行動を制限しないようにしている。また、勉強会により身体拘束への理解を深める努力をしている。	「外に出たいと思う」本人の思いを尊重し、車の施錠確認の役割など職員間で連携を取り対応している。拘束の弊害に関して資料を基に具体的に禁止言葉、行動の抑制等を挙げ職員間で考える研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、知識の向上及び防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部での勉強会を行い、知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理職により、契約の際は十分な説明を行い、ご理解頂くようにしている。また、疑問点を質問をする場を設けて、納得いただいってから契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会やアンケート調査、意見箱を設置して意見を聞く場を設けている。また、面会時や電話連絡の際も疑問や不安がないかを確認して対応している。	面会時に入居者の状態を話し、家族から情報を得てケアに活かしている。アンケートは9割の回答があり、職員の対応、担当制、居室の整理整頓等の意見があり、それらに対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、必要に応じて話し合いの機会を作り、関係性を築く努力をしている。	入居者との関わり方の意見が多く、職員間で話し合い、個々の意見を参考に対応をしている。ケアをする中で、記録に時間がとられ休憩や就業時間が削られてしまう等課題があり、職員間で話し合っ見直しを考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得におけるキャリアアップや面談により、努力や実績を把握するように努めている。就業時間通りに終わらない事もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を積極的に行い、知識の向上に努めている。また、外部研修への参加や資格取得を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設見学や、グループホーム協議会に加入し、ブロック集会への参加または研修会等で交流する機会を作れるように努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際して、本人と家族、その他のサービス事業者と連携を図り、不安を軽減し、安心を確保する為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際して、十分な聞き取りを行い、不安や疑問がないよう、相談しやすい環境作りを行い、その都度話し合っって柔軟に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような事を望むのかスタッフで話し合いの中で見極めその内容をケアしていく。必要に応じて他のサービス事業者からも可能な限り情報を提供して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でお手伝いをして頂いたり、お話を聞いて頂いたり、支え合いながら生活できるように努めてはいるが、全ての入居者に対して出来ている訳ではない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や面会時などに本人の状況を報告し協力して頂いたり、行事等で共に過ごす時間を大切に、共に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会しやすい環境を作っている。また、外出の機会を多く設け、馴染みの場所や人との関係が途切れないように心掛けてはいるが、全入居者ではないので今後の課題である。	知り合いが回覧板を持参し、話し込んだり、馴染みの理容師が2ヶ月に1回来ている。入居、間もない方は職員が仲介し関係作りをしている。家族等に行事案内を出し、ホームに足を運ぶよう継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握して、場合により職員が場を取り持ち、橋渡し役として支援している。必要な場合はカンファレンスを開催して、情報を共有しているが、関わり合いの支援はまだ不十分である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今のところ、退去後のフォローを行ってきたケースはないが、相談等を受けた場合は対応していく体制は出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉や表情などから想いを汲み取る努力をして、会議等で話し合いを行い必要に応じて、アセスメントを行い、介護計画に盛り込んでいる。	台所に立つことが自分の役割としている入居者の指示により、他入居者も一緒に係わり配膳したり良い関係性が出来ている。表情が沈みがちな方をドライブに誘う事で元気を取り戻す等対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族、関係機関から情報をいただき、個人ファイルにまとめ、入居後は本人のお話や、必要に応じて家族に確認する事で、これまでの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティング、介護記録などで心身の状態、一日の過ごし方については情報を交換し、共有できている。有する力については更に引き出せるものがないか、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成およびモニタリングの際は、家族の意向を把握して、スタッフからの意見を集め、現状に即した介護計画を作成している。	入居者の意向や背景を取り入れ、計画書を作成している。月1回カンファレンスをし、症状の進行により、発語が出来ない方には、言葉を引き出すよう促す等、職員間で共有した支援になる様計画書に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入されていても共有出来ていなかったり、実践できていない事があるが、共有できるように努めている。また、記録しておかなければいけないものが記入がされていない為に、共有できていない時がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族の要望や状況の変化により、ケアの方向性を考え臨機応変な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事やイベントに積極的に参加をして、本人の望む楽しみを出来る限り提供出来るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に本人・家族の意向に沿って、主治医を決めてもらう。また、担当の主治医と連携を密にして対応している。ご家族の希望などにより、主治医以外の医療機関も受診している。	往診クリニックが定期往診で月1回と入居者毎に16日間に分けて往診があり、看護師も常駐している。専門医(精神科、眼科等)は職員が同行し、情報はアイパッドに取り込み、状態に応じ家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が日中帯は毎日確保されており、報告や相談を行い、情報の共有に努めながら協働出来る環境を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、病院関係者へ情報を提供して随時連絡をとり、退院前には話し合いの場を設けたりして情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診クリニックの往診を受けている方は、契約時に終末期対応についての説明を行っている。生活保護の方は、市役所職員と定期的に情報交換を行っている。また、2月に看取りがありチームで支援できている。	書類等は整備しており、入居時に家族に説明し、意思確認書をとっている家族もいる。2例の看取りを経験し、その経験を活かし、職員間で話し合いをし、看取りケアに前向きに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応について定期的に訓練を行い、全員が実践できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を行い、安全に避難できるように努めている。地域との協力体制は今後の課題である。	夜間想定避難訓練を実施している。全員が夜勤対応、防災設備操作ができる様に勤務表で調整している。地域住民に協力を呼びかけるが参加に至らず、地域への連絡手段等を課題としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみのある声掛けになることもあるが、一人ひとりの人格を尊重して、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを心掛けている。	入居者の状態に応じた声掛けをしている。言葉が出にくい方に選択して頂けるような話掛けや「今日は何をしたいか」など聞いている。居室の出入りや、トイレでの対応等プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の状態に合わせて選択できるような問いかけを行い、自己決定が出来るように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なかなか希望に沿えない面もあるが、本人の状態などを考慮している。またそれぞれの一日の生活リズムを大切にするように日々心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔で季節に合った身だしなみを本人が選べるように支援している。訪問カットを利用しておしゃれに心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食する事で楽しみや好みに応じるようにしている。入居者は能力に応じて、準備や片づけに関わっている。	入居者の嗜好を事前に調査し、その都度選択してもらい、一緒に食事を作っている。週2回は献立から、買い物まで入居者と一緒に行い、好きなメニュー(白菜の炒め煮等)を調理し食べている。外食にも応じている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録、報告により情報を共有し、一人ひとりに合わせた食事形態や補食、声掛けを工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は行っていない。訪問歯科の導入を行い、口腔内の清潔についてアドバイスを受けて行っていく予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	能力や排泄パターンを観察しトイレ誘導を行い、排泄の失敗やおむつの使用を減らすように努めている。	自立が多くトイレで排泄しているが、個別に声掛けや排泄後の確認等をしている。夜間帯は、安眠優先や、時間を見て声掛けする等個別対応である。食物繊維や乳酸飲料を摂り、排便コントロールにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料の摂取をすすめたり、水分摂取の声掛けを行っている。なるべく下剤の服用に頼らず自然排便を促していきたいが現状では下剤により排便する方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を把握して、入浴日、時間を設定せず希望に応じた入浴の支援を行っている。	夕食後に毎晩入浴する方や、夕方に入る方等、希望に応じた支援である。浴槽は、入居者の状態に応じて多様に活用できる個別の機械浴である。拒否気味の方には声掛けや、入浴時間等を考慮し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	深々の状況を把握して、休憩をとったり、不安や想いがあり眠れない方には傾聴して安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で薬の目的を理解するように努めており、変化がある時には看護師などに報告している。服薬介助の際に飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の食べたい物を聞き、買い物や外食に行くことで気分転換を図っている。行事などを通じて張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	常に希望通りにはいかないが、毎月の行事の中で、家族と連携を図り、普段は行けないような場所に出掛けたり、毎日ドライブで色々な場所に行っている。	ラーメン、ピザが食べたい等外食に出かけたリ、朝、夕、毎日ドライブをする入居者等希望に応じた対応をしている。月に1~2回は定義山、七北田方面、ひまわりを見に行く等遠くに出かけ、季節感を味わったり、気分転換となる支援をしている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方は、外出時自分で支払いを行っている。管理が難しい方は施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方は自分で自由に連絡をとっている。また、希望があれば施設の電話を利用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で居心地の良い空間づくりの為、季節感のある装飾や、光や音の調整、温度管理など、環境整備を工夫している。	陽光が存分に入る共有空間には、食事用のテーブルと椅子が置かれている。テレビの前にソファを置き、入居者は編み物をしたりテレビを見たり思い思いに寛いでいる。季節に合ったハロウィンの飾りつけや入居者の作品などを掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれる場所や皆で集える場所など、それぞれ好きな場所で過ごせるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や好みの物を持ちこんで頂くように家族と相談し、工夫するように努めている。	ベッド、洗面台、クローゼットを設えた部屋には、使い馴染んだ筆筒や衣装ケース等を置いている。家族と一緒にベッドの位置や家具の配置を考え、入居者の過ごしやすい部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所のスペースを広くしたり車椅子を使用する方や、背の低い方が座って作業出来るように環境の整備を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490900065		
法人名	社会福祉法人功寿会		
事業所名	グループホーム「市川桜の家」	ユニット名	さざんか
所在地	宮城県多賀城市市川字奏社31-8		
自己評価作成日	平成 26 年 9 月 15 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 年 月 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念である、「安全・自由・笑顔のある豊かな暮らし」をモットーに職員同士連携を図り、入居者様とその人らしい生活が送れるように支援を行っている。日中は施設せず、可能な限り自由に外へ出ることが出来る。また、外出の機会を多く設け家族や地域との交流を活発に行い、地域で認知症の方が安心して過ごせるように外部との関わり合いをもっている。入居者の残存機能を把握して、その能力を活かせるような役割活動を行っている。終末期における関わりについては医療機関との連携を図り、入居者様が最後まで住み慣れた場所で生活が送れるように支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して2年目を迎える「市川桜の家」は、自然に恵まれ、住宅が点在する閑静な環境にある。入居者は、ソファにかけて横になったり編み物をしたりテレビを見る等リビングで思い思いに寛ぎ過ごされている。専門資格を持つ職員が定着している反面、離職する職員等課題もあるが、入居者一人ひとりが自由に暮らせる「もう一つの我が家」をめざし、職員は日々のケアに取り組んでる。認知症の研修を行う等、積極的に地域に向けた働きかけをしている。事業所の開設から日も浅く、地域との基盤作りに向けた更なる働きかけを行い、地域の福祉の拠点となることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム「市川桜の家」)「ユニット名 さざんか」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で理念を作り、朝のミーティングで唱和をして、実践できるように努めている。また、その時の入居者の状態に合わせて行動指針を変更している。	年度初めに行動指針6項目(その人に合った自由な暮らし・役割の提供他)を見直し理念を振り返った。職員は「自分だったら～してほしい」を入居者の立場に立った支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(夏祭り、敬老会、お花見等)に参加して交流を深めている。また納涼会等の施設行事にも地域の方々に参加をして頂いている。	町内会に加入している。地区の行事等に参加したり、家族の紹介でボランティア(大正琴他)も来訪している。地域向けに認知症の講習をする等地域交流に努めている。継続した日常的な取り組みに期待したい。	日常の地域交流の働きかけを行い、入居者の見守りや災害時等に協力が得られるよう運営推進会議を活用する等、地域交流の基盤づくりに取り組む事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部交流、認知症サポーター養成講座等を企画して、認知症に対して理解を深めていただけるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や地域包括センター、行政の方を集まって頂き、取り組みを報告し、ご意見を頂戴している。また、会議の議事録を掲示して公表する事により、誰でも内容を把握することが出来るようにしている。	行政、地域包括職員、民生委員(住職)家族等の参加で奇数月に定期的に開催している。行政から保険制度や市の現状の情報を得たり、西部地区の学習会の様子を包括職員から聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者が運営推進会議に参加して、事業所の取り組みを報告して意見を交換を行っている。	同行の職員が、市民が入居するので市にも責任があると話していた。身寄りのない方等の入居者の様子うかがいに来訪している。市主催の防災訓練では、ホームを拠点とした防災体制の訓練を予定している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は防犯上の理由により、夜間帯のみ施錠をしている。日中は自由に出入り出来る環境により、入居者の行動を制限しないようにしている。また、勉強会により身体拘束への理解を深める努力をしている。	「外に出たいと思う」本人の思いを尊重し、車の施錠確認の役割など職員間で連携を取り対応している。拘束の弊害に関して資料を基に具体的に禁止言葉、行動の抑制等を挙げ職員間で考える研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、知識の向上及び防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部での勉強会を行い、知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理職により、契約の際は十分な説明を行い、ご理解頂くようにしている。また、疑問点は質問をする場を設けて、納得いただいたから契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で意見交換の場を設けている。また苦情の窓口があり、玄関には意見箱を設置して意見の内容は誰でも見る事が出来るように掲示している。	面会時に入居者の状態を話し、家族から情報を得てケアに活かしている。アンケートは9割の回答があり、職員の対応、担当制、居室の整理整頓等の意見があり、それらに対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、必要に応じて話し合いの機会を作り、関係性を築く努力をしている。	入居者との関わり方の意見が多く、職員間で話し合い、個々の意見を参考に対応をしている。ケアをする中で、記録に時間がとられ休憩や就業時間が削られてしまう等課題があり、職員間で話し合っ見直しを考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得におけるキャリアアップや面談により、努力や実績を把握するように努めている。就業時間通りに終わらない事もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を定期的に行い、外部研修にも積極的に参加している。また、復命する事により、職員全体に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設見学や、グループホーム協議会に加入し、ブロック集会への参加または研修会等で交流する機会を作るように努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際して、本人と家族、その他のサービス事業者と連携を図り、不安を軽減し、安心を確保する為の関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際して、十分な聞き取りを行い、不安や疑問がないよう、相談しやすい環境作りを行い、その都度話し合っって柔軟に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような事を望むのかスタッフで話し合いの中で見極めその内容をケアしていく。必要に応じて他のサービス事業者からも可能な限り情報を提供して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でお手伝いをして頂いたり、お話を聞いて頂いたり、支え合いながら生活できるように努めてはいるが、全ての入居者に対して出来ている訳ではない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の様子を毎月の手紙で報告をしている。また、来苑時には本人の変化等をご家族様にお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会しやすい環境を作っている。また、外出の機会を多く設け、馴染みの場所や人との関係が途切れないように心掛けてはいるが、全入居者ではないので今後の課題である。	知り合いが回覧板を持参し、話し込んだり、馴染みの理容師が2ヶ月に1回来ている。入居、間もない方は職員が仲介し関係作りをしている。家族等に行事案内を出し、ホームに足を運ぶよう継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しないように、会議等で話し合い、関わりを検討する時間を持ち、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今のところ、退去後のフォローを行ってきたケースはないが、相談等を受けた場合は対応していく体制は出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報を得て、本人の希望や想いを引き出せるように努力をしている。また、状況によりアセスメントをして介護計画に盛り込んでいる。	台所に立つことが自分の役割としている入居者の指示により、他入居者も一緒に係わり配膳したり良い関係性が出来ている。表情が沈みがちな方をドライブに誘う事で元気を取り戻す等対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族、関係機関から情報をいただき、個人ファイルにまとめ、入居後は本人のお話や、必要に応じて家族に確認する事で、これまでの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティング、介護記録などで心身の状態、一日の過ごし方については情報を交換し、共有できている。有する力については更に引き出せるものがないか、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等で話し合いを行い、本人または家族の意向が反映された介護計画を作成している。	入居者の意向や背景を取り入れ、計画書を作成している。月1回カンファレンスをし、症状の進行により、発語が出来ない方には、言葉を引き出すよう促す等、職員間で共有した支援になる様計画書に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録して、変化や気づきがあれば申し送り時や会議等で情報を共有してケアに生かす努力をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の入居者様の状況や状態により、ケースカンファレンスをして支援の方向性を決めるなど、なるべく本人らしさを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事やイベントに積極的に参加をして、本人の望む楽しみを出来る限り提供出来るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に本人・家族の意向に沿って、主治医を決めてもらう。また、担当の主治医と連携を密にして対応している。ご家族の希望などにより、主治医以外の医療機関も受診している。	往診クリニックが定期往診で月1回と入居者毎に16日間に分けて往診があり、看護師も常駐している。専門医(精神科、眼科等)は職員が同行し、情報はアイパッドに取り込み、状態に応じ家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の日々の体調変化に気を配り、気付いた事は看護師に報告をして指示を受けている。また、介護職・看護師で連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、病院関係者へ情報を提供して随時連絡をとり、退院前には話し合いの場を設けたりして情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診クリニックの往診を受けている方は、契約時に終末期対応についての説明を行っている。	書類等は整備しており、入居時に家族に説明し、意思確認書をとっている家族もいる。2例の看取りを経験し、その経験を活かし、職員間で話し合いをし、看取りケアに前向きに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防隊より、心肺蘇生の講義を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を行って、緊急時の備えをしている。地域の方と協働での訓練は現在出来ていない。	夜間想定避難訓練を実施している。全員が夜勤対応、防災設備操作ができる様に勤務表で調整している。地域住民に協力を呼びかけるが参加に至らず、地域への連絡手段等を課題としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみのある声掛けをしながら、本人を尊重して、一人ひとりに合った声掛けや対応を心掛けている。	入居者の状態に応じた声掛けをしている。言葉が出にくい方に選択して頂けるような話掛けや「今日は何をしたいか」など聞いている。居室の出入りや、トイレでの対応等プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを工夫して、閉じた質問や開かれた質問を行い自己決定を促す努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで自由に生活して頂けるように、職員が対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に添った身だしなみを整え、本人の希望に合わせて髪型を変えたり化粧をしている。服は本人の自己決定によりなるべく選んでもらえるような声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	役割活動を通して、利用者と職員が食事の準備や片づけをしている。また、嫌いな物や好きな物を考慮している。また、食器や盛り付け食事形態を考慮したメニューを提供している。	入居者の嗜好を事前に調査し、その都度選択してもらい、一緒に食事を作っている。週2回は献立から、買い物まで入居者と一緒に行い、好きなメニュー(白菜の炒め煮等)を調理し食べている。外食にも応じている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量をチェックして栄養が摂れていない時には補食を準備するなど栄養不足にならないような支援を行っている。また、献立は法人の管理栄養士が作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の口腔ケアを行っている。1人ひとりの口腔状態を把握できるように、訪問歯科の導入を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの情報を職員間で共有をして声掛けや誘導を行っている。	自立が多くトイレで排泄しているが、個別に声掛けや排泄後の確認等をしている。夜間帯は、安眠優先や、時間を見て声掛けする等個別対応である。食物繊維や乳酸飲料を摂り、排便コントロールにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士のメニューに従い、食物繊維の多い食べ物を提供し、便秘予防に努めている。週1回外部からくるヤクルトを利用してなるべく下剤に頼らない方法を検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に声掛けを行い、一人ひとりの希望に沿った時間帯に入浴をして頂いている。	夕食後に毎晩入浴する方や、夕方に入る方等、希望に応じた支援である。浴槽は、入居者の状態に応じて多様に活用できる個別の機械浴である。拒否気味の方には声掛けや、入浴時間等を考慮し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状況を見て、日中も休息できるように支援している。また、夜間帯も眠れない方に対してホットミルクを提供するなどして安眠出来るような関わりを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての職員が薬について完全に把握できていないので、今後の課題である。症状の変化がある場合は主治医に相談して、専門機関を受診できるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの好みを聞き、外食時には好きな物を食べて頂いたり、外出して気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事や季節感を感じられるような外出をしている。またその日の希望で散歩へ行くなど自由に過ごせるように配慮している。	ラーメン、ピザが食べたい等外食に出かけたリ、朝、夕、毎日ドライブをする入居者等希望に応じた対応をしている。月に1~2回は定義山、七北田方面、ひまわりを見に行く等遠くに出かけ、季節感を味わったり、気分転換となる支援をしている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方は、外出時自分で支払いを行っている。管理が難しい方は施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方は自分で自由に連絡をとっている。また、希望があれば施設の電話を利用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾で季節感が感じ取れるような工夫をしたり、環境整備に気を配っている。日々居心地の良い空間作りのため、清掃や温度調整等を行っている。	陽光が存分に入る共有空間には、食事用のテーブルと椅子が置かれている。テレビの前にソファを置き、入居者は編み物をしたりテレビを見たり思い思いに寛いでいる。季節に合ったハロウィンの飾りつけや入居者の作品などを掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでも居室へ行くことが出来て、一人の時間が持てるようになっている。フロアでは茶話会に集まり、話をしたり、自由に過ごしたりしている。また、セミプライベートスペースの和室などもご利用頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時以前から使用していた家具を配置する等使い慣れたものを活かす努力をしている。また、居室の配置等、使用しやすいように居心地良く過ごせるようにしている。	ベッド、洗面台、クローゼットを設えた部屋には、使い馴染んだ筆筒や衣装ケース等を置いている。家族と一緒にベッドの位置や家具の配置を考え、入居者の過ごしやすい部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所のスペースを広くしたり車椅子を使用する方や、背の低い方が座って作業出来るように環境の整備を行っている。		